

2007年3月期 中間決算について

2006年11月16日
成田国際空港株式会社

1 航空需要取扱実績について

ほぼ前年同期並みの実績。

- 〔前年同期比〕航空機発着回数 99.8%、航空旅客数 101.8%、貨物量 100.3%、給油量 96.7%

2 連結決算について

（単位：億円）

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)			
	2005年度 実績 A	2006年度 実績 B	増 減		2005年度 実績 C	2006年度 見 通 し D	増 減	
			金 額 B-A	% B/Ax100			金 額 D-C	% D/Cx100
営業収益	877	908	30	103.5	1,712	1,840	127	107.5
営業利益	262	180	81	68.8	420	300	120	71.4
経常利益	213	131	82	61.6	320	190	130	59.3
中間(当期)純利益	121	65	55	54.1	147	100	47	67.7

（セグメント区分の変更）

2006年度においてセグメント区分を変更し、「空港運営事業」「リテール事業」「施設貸付事業」「鉄道事業」の4セグメントとして開示。（別紙「セグメント区分の変更について」参照）

（1）経営成績の概要

営業収益 908 億円（前年同期比 30 億円の増）、経常利益 131 億円（同 82 億円の減）で増収減益。
中間純利益は 65 億円（同 55 億円の減）と減益。

- 営業収益は、着陸料等の料金改定の影響で空港運営事業における収入が減収となったものの、リテール事業において南ウイングの供用と国内最大級の免税ブランドモール「nari ta-nakamise」のオープンに伴い、(株)NAAリテイリングが営業を拡大し、NAA&ANAデューティーフリー(株)及び(株)NAA&JAL-DFSが6月に営業開始したことにより物販収入の増収があったことなどにより、前年同期比 30 億円の増収。
- 経常利益は、南ウイング供用に伴い営業費用が増加したことにより、前年同期比 82 億円の減益。
- 中間純利益は、固定資産除却損の増加及びターミナルビル再配置計画に伴う移転補償費を計上したことにより、前年同期比 55 億円の減益。

子会社の設立。

- NAA成田空港セコム(株)を4月に設立。
- 子会社数は前期末 21 社 22 社、関連会社は 1 社。

（2）財政状態の概要

- 当期末の有利子長期債務残高は前期末より 195 億円増加。平均金利は前期末から 0.03 ポイント上昇し 1.72%。
- 純資産合計は 74 億円増加し、当期末残高は 2,029 億円。
- 自己資本比率は 0.4 ポイント増加して 19.8%。

(3) キャッシュ・フローの状況

フリー・キャッシュ・フローは 286 億円 (対前年同期比 374 億円)

- 営業CFは217億円。(料金改定の影響と営業費用の増加に伴う営業利益の減少などにより62億円流入額の減少)
- 投資CFは504億円。(固定資産の取得による支出の増加などにより311億円流出額の増加)

(4) 通期の連結業績見通し

営業収益1,840億円(前期比127億円の増) 経常利益190億円(同130億円の減)で増収減益の見込み。当期純利益は100億円(同47億円の減)と減益。

- 営業収益は、物販売上の増加(リテール事業)及び冬ダイヤからの国内線未利用枠の有効活用による中国線等の増便(空港運営事業)などにより、増収。
- 経常利益は南ウイング供用に伴う営業費用の増加により、減益。
- 当期純利益は特別損失が増加し、減益。

当期純利益は、2006年5月18日発表の予想と同額。

3 単体決算について

(単位:億円)

区 分	中間期(4月1日~9月30日)				通期(4月1日~3月31日)			
	2005年度 実績 A	2006年度 実績 B	増 減		2005年度 実績 C	2006年度 見 通 し D	増 減	
			金 額 B-A	% B/Ax100			金 額 D-C	% D/Cx100
営業収益	824	799	24	97.0	1,594	1,600	5	100.3
営業利益	257	168	88	65.7	407	280	127	68.8
経常利益	208	121	87	58.1	308	180	128	58.3
中間(当期)純利益	120	60	59	50.4	141	90	51	63.6

(1) 経営成績の概要

営業収益799億円(前年同期比24億円の減) 経常利益121億円(同87億円の減)で減収減益。中間純利益は60億円(同59億円の減)と減少。

- 営業収益は、南ウイング供用による構内営業料収入の増加などがあったものの、料金改定の影響(36億円)で空港使用料などが減収となり、全体では24億円の減収。
- 経常利益は、南ウイング供用に伴う営業費用が増加し、87億円の減益。
- 中間純利益は、固定資産除却損の増加及びターミナルビル再配置計画に伴う移転補償費を計上したことにより、59億円の減益。

(2) 通期の単体業績見通し

営業収益1,600億円(前期比5億円の増) 経常利益180億円(同128億円の減)で増収減益の見込み。当期純利益は90億円(同51億円の減)と減益。

- 営業収益は、冬ダイヤからの国内線未利用枠の有効活用による中国線等の増便などにより、増収。
- 経常利益は営業費用の増加により、減益。
- 当期純利益は特別損失が増加し、減益。

セグメント区分の変更について

変更理由

■ 中期経営計画『Newステージ2010』において、非航空収入の増大策としてリテール事業の積極的な展開を打ち出したこと及び第1旅客ターミナルビルグランドオープンにより、リテール事業の売上げ規模が増加し重要性が高まったことに伴い、新たに「リテール事業」を設定。既存のセグメント区分の見直しを実施。

